

う、又下ゆゝ大久と由

噫。ハーダー公羽の

西尾雲郎

文壇の新星の一つ——ハーダーの人の眼に
つゝ眩りたるは、その少女創作非常の才と
一八七〇年に世に出——二十四年の後、少四割め
の作「静けき道り」を絶——この年の事とすると、
我々天保十四年（西暦一八四〇年）二月二日生れの
彼はもう三十五歳。ラキートの切り方はあつた
うらたのであるが、その後、作物の續々と
産出され五十六歳の一八九五年に公に——掉尾の

小説家

大作「埋れんがユード」の一篇をお止めは小説家と
ての生命も自ら断つに至るまでに、大なる註
の数は書冊で数へてお後十有七。それのみ、小説家
の傑作であるが、大部分うらた傑作——たもので
あるのであるうら文人——その彼の生命は、そ
れだけひびきつゝ永い方と語つてよいのである
か、その収まる年餘、一すお休してうら彼は、新
詩壇におつて出で、一八九八年に「ウエセツタスの詩」を公
にし、また二年してうら「昔と今」の詩を物し、その翌
一九〇二年に出版した（それ）もうたう、西尾公羽の詩